フランス文学研究

関連キーワード:　フランス文学　フランス現代思想　フランス語教育

研究内容

私は20世紀フランスの作家・思想家であるジャン＝ポール・サルトルを主に研究しています。サルトルの思想は現代の日本においても重要な意義を持っています。宗教的規範や慣習的規範が影響力を失った今日、これらの伝統的価値観からは、個人や社会にとって何が善で何が悪かを簡単に処断することができなくなりました。社会は漠然としたニヒリズムや他者への無関心に覆われ、人々の多くが責を負うことを嫌い、もっぱら個人的利益の追求に生の意味を見いだしているようです。

サルトルは「実存は本質に先立つ」という表現で人間のあり方を定式化し、本質にあらかじめ規定されない自由な人間に対して、自由を無条件に拘束する超越的で普遍的な規律を構想しませんでした。彼の思想において倫理は、具体的な状況や他者とのつながりのなかで常に再定義される規範として探求されます。

この探求の道筋を明らかにすることが私の研究目的であり、現在は主にサルトルの演劇作品を考察対象にしています。演劇を選んだのは、その戯曲が一貫して具体的状況に置かれた人間の提示を主題にしているからです。テキスト分析を主要な方法論として、どのような思考様式や対話様式が各人に生の意味を捉えさせ、状況に応じた規範の創出へと導くのかを明らかにしようとしています。

＊

さらに近年では、19世紀フランスの歴史家ジュール・ミシュレの研究にも取り組んでいます。その一環として、ミシュレの重要な著作を数冊翻訳し、刊行しました。また、物語論や文体論、批評理論といった文学理論も研究対象にしており、これらの理論を複合的に応用したテキスト分析の方法論を模索しています。

研究者プロフィール

教養教育センター　准教授　翠川博之

専門分野：フランス文学

主要著書：

J.ミシュレ『万物の宴』（共訳）藤原書店　2023年

J.ミシュレ『民衆と情熱 — 大歴史家が遺した日記』全2巻（共訳）藤原書店　2020年

『Quoi de neuf ? — 図解明快フランス語』（共著）朝日出版社　2018年

地域・産学官連携の可能性、事業化のイメージ 他

公共機関との連携：

フランス文学に関する講座やシンポジウム、ワークショップなど地域文化振興プロジェクトの企画・開催。中高生や一般市民を対象にしたフランス語講座の開講。

文化機関との連携：

図書館、文学館など文化機関とのフランス文学ないし文学全般に関する共同イベントの企画・開催。日仏文化交流史等に関わる資料調査やデジタルアーカイブ作成への協力。

企業との連携：

フランス文学の普及活動、翻訳プロジェクトなど出版社との共同出版事業。フランス語のオンラインコースや教材の開発。

研究者への連絡先

産学連携推進センター　E-mail：srcenter@mail.tohoku-gakuin.ac.jp
電　話：022-354-8122